授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学実習Ⅰ	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Clinical Nursing Ⅰ	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）

講師名	
実務経験概要	大下動物病院開業獣医師 大阪府堺市にて長きにわたり、小動物の臨床に従事。

授業の概要・目的

動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。また動物看護過程の一連のプロセスを理解する。

到達目標

動物看護師としての業務は多岐にわたり、病院での診察が行われるために様々な事を担当します。この科目では、1年次に行った事の復習も兼ねながら、学んだ知識や技術を、よりスムーズに行えるように習得する事を目指します。動物病院以外のスタッフの場合でも、獣医療に関する知識や技術は、動物を扱う上で必ず役立つと思います。動物看護師としての必要な基本的な知識、技術、検査手技の学習が目的です。

授業計画（テーマ・内容）

1	動物看護師を目指して学習するにあたり、動物看護師をとりまく現状と目指すべき動物看護師像について	16	血液検査（CBC・生化学）について修得する。
2	カルテの書き方、共通した用語について・猫の行動学	17	血液検査（採血・塗沫染色）について修得する。
3	身体各部の名称、共通の用語について、体の器官のあらまし。実習犬に触れることで生体の扱いの基本を学ぶ。	18	前2回の復習を行い理解を深める。
4	実習の保定について、それぞれの検査に応じた保定のパターンや保定器具の実際の使用、採血時の保定をイメージしてもらう。	19	モニター・輸液について理解する。
5	身体一般検査とその表現の仕方	20	外科器具・包帯について理解する。
6	医薬品の取り扱いについて基本的な知識を身に付ける。 薬品の計算量、投薬の為の調剤方法や、投薬の仕方。実際の投薬。 コンプライアンスについて	21	術着・グローブについて理解する。
7	ルートの違いはどういうことなのか。 点滴投与についても学ぶ。計算。 注射薬の取り扱いを身に付ける。鶏肉を利用した注射実習。犬での皮下注射の形だけ。	22	外科関係振り返りを行い理解を深める。
8	顕微鏡の使い方、遠心分離器や比重計など一般的な検査器具の基本的な扱い方を身に付ける	23	エコー・内視鏡について修得する。
9	尿検査（ペーパー・沈渣・比重）を実際に行う	24	レントゲン・CTについて修得する。
10	尿検査（ペーパー・沈渣・比重）を実際に行う	25	血液検査（塗沫・CBC生化学）の振り返りを行い理解を深める。
11	便検査（直接・浮遊）	26	血液検査（塗沫・CBC生化学）の振り返りを行い理解を深める。
12	便検査（直接・浮遊）	27	便検査・尿検査振り返りを行い理解を深める。
13	前期学習内容の総括を行う。	28	後期学習内容の復習を行い理解を深める。
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥ （ファームプレス） / 動物看護実習テキスト （インターズー） / 動物病院検査技術ガイド （チクサン出版社）
参考書	なし。
評価方法・基準	実技試験及び筆記試験をともに100点満点で実施し、総合的に評価を行う。最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	愛護・適正飼養	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	適正飼養指導論	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Proper Breeding Guidance	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	外資ペットフードメーカーに於ける輸入計画・販売計画の立案。企画販売およびセミナー開催・講演。 独立後ペット用品流通業界でのコンサルティング・販売促進を手掛けながら、自ら輸入ペットフードの販売や総合ペットショップを運営。

授業の概要・目的

愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。

到達目標

愛玩動物の飼養、適正飼養の推進、災害危機管理と支援、動物愛護管理行政について理解する。

授業計画（テーマ・内容）

1	愛玩動物の飼養の概論について理解する。	16	災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる。
2	愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する。	17	愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる。
3	愛玩動物飼養の現状について理解する。	18	災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する。
4	愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する。	19	災害危機管理に関して総まとめを行う
5	愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、グリーフケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心理を理解し、必要な支援について理解する。	20	災害危機管理に関して振り返りを行う
6	適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する。	21	動物愛護管理行政の概要について理解する。
7	愛玩動物の飼養に関して総まとめを行う	22	飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する。
8	愛玩動物飼養に関して振り返りを行う	23	動物愛護週間の役割と実施状況について理解する。
9	適正飼養の推進の概要について理解する。	24	犬・猫の引き取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する。
10	動物取扱業者における適正飼養について理解する。	25	動物による事故の内容と報告状況について理解する。
11	愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する。	26	動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・競技会の役割について理解する。
12	問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する。	27	動物取り扱い責任者の選任条件と役割について理解する。
13	適正飼養の推進に関して総まとめを行う	28	動物愛護管理行政に関して総まとめを行う
14	適正飼養の推進に関して振り返りを行う	29	動物愛護管理行政に関して振り返りを行う
15	災害危機管理の概要について理解する。	30	本科目の総復習を行う

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業にて習う内容を予習復習を行う。授業中に適宜指導する
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト（ファームプレス）
参考書	
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	公衆衛生・関係法規	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物感染症学	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Infectio	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	大阪市のはる動物病院、堺市のクッキー動物病院にて鍼灸漢方専門外来を担当、鍼灸漢方の専門病院「どうぶつのハーモニーケアOHANA」を開院し東洋医学やナチュラルケアによる診療を日々行っている。

授業の概要・目的

・代替医療（ナチュラルケア・ホリスティックケア）についての理解を深め、自分に何ができるのかを考えオーナーへのサービススキルの一環として説明・実践できるような知識と技術を学ぶ。

到達目標

・代替医療の種類について学習・理解し、オーナーに説明できるようにする。
・ナチュラルケアの知識と技術を習得して、獣医でなくてもできる範囲についてはオーナーへ提供できるようにする。
・担当犬に対して、自分のできる範囲で適切なケアを行えるようにする。 ・オーナー向けにマッサージやアロマテラピーなどの教室を開催できるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	東洋医学の概要と自分の体質チェック	16	前期総復習
2	東洋医学の概要・鍼灸デモンストレーション	17	腎経・膀胱経①
3	陰陽の考え方	18	腎経・膀胱経②
4	八綱弁証	19	心経・小腸経　／ツボ実習
5	気血水の考え方①	20	脾経・胃経
6	気血水の考え方②	21	肝経・胆経
7	五行の考え方①	22	肺経・大腸経　／ツボ実習
8	五行の考え方②	23	灸について、灸実習
9	東洋医学的体質診断まとめ	24	臓腑弁証まとめ
10	経絡経穴	25	臓腑弁証まとめ
11	四診（舌診・脈診）	26	犬の生物学的適切な食事とは
12	漢方薬膳について	27	理想の食事を作ってみよう（実習）
13	薬膳作り実習	28	後期まとめ
14	前期試験	29	後期試験
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	
教科書・テキスト	
参考書	
評価方法・基準	
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	愛護・適正飼養	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	愛玩動物学Ⅱ	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Companion Animal StudiesⅡ	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）

講師名	
実務経験概要	みなせ動物病院開業獣医師 京都府乙訓郡を中心に、犬猫ならびにエキゾチックアニマルを中心とした臨床に従事

授業の概要・目的

愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。

到達目標

愛玩動物の歴史、品種、使役動物の歴史、補助犬、適正な飼養管理、基本的グルーミング、ストレス解消について理解する。

授業計画（テーマ・内容）

1	歴史と品種の概要を理解する。	16	犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など）について理解する。
2	犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する。	17	猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢）について理解する。
3	猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する。	18	愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する。
4	代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する。	19	代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理解する。
5	血統と血統書について理解する。	20	愛玩動物の飼養管理に関して総まとめを行う。
6	歴史と品種に関して総まとめを行う。	21	愛玩動物の飼養管理に関して振り返りを行う。
7	歴史と品種に関して振り返りを行う。	22	動物の基本的な取扱いの概要を理解する。
8	使役動物の概要を理解する。	23	動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する。
9	使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する。	24	基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解する。
10	補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する。	25	基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解する。
11	補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割と育成、適性について理解する。	26	適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する。
12	その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬など）の種類と特徴及び現状について理解する。	27	適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する。
13	使役動物に関して総まとめを行う。	28	動物の基本的な取扱いに関して総まとめを行う。
14	使役動物に関して振り返りを行う。	29	動物の基本的な取扱いに関して振り返りを行う。
15	愛玩動物の飼養管理の概要を理解する。	30	本科目の総復習を行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業にて習う内容を予習復習を行う。授業中に適宜指導する
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト（ファームプレス）
参考書	
評価方法・基準	筆記試験・課題提出物・出席率にて総合評価。最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物愛護・適正飼養実習	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Welfere Proper culture	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)

講師名	
実務経験概要	動物看護師として、総合的に飼い主のケアや獣医師のサポートに従事し、臨床現場にて活躍。

授業の概要・目的

愛玩動物として飼養される動物の適切な飼養管理方法を身につける
動物愛護に関する現場を経験し、基礎となる知識・技術を身につける

到達目標

動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。

授業計画（テーマ・内容）

1	オリエンテーション 看護実習室の使い方	16	猫類の飼育法・看護法 主な病気について
2	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育について、看護法の実践、犬舎掃除の仕方概要	17	猫類の飼育法・看護法 看護法の実践、応急処置
3	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育についての実践①　飼育環境整備と飼育用具	18	猫類の飼育法・看護法 入院管理
4	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育についての実践②　ドッグフードの与え方と種類，量	19	鳥類・小型哺乳類の飼育法・看護法 主な病気について
5	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育についての実践③、犬舎掃除の仕方	20	鳥類・小型哺乳類の飼育法・看護法 看護法の実践、応急処置
6	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育についての実践④、主な犬の病気について	21	鳥類・小型哺乳類の飼育法・看護法 入院管理
7	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育についての実践⑤、主な犬の病気の予防について①	22	爬虫類・両生類の飼育法・看護法 主な病気について
8	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育についての実践⑥、主な犬の病気の予防について②	23	爬虫類・両生類の飼育法・看護法 看護法の実践、応急処置
9	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育について看護法の実践、応急処置①	24	爬虫類・両生類の飼育法・看護法 入院管理
10	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育について看護法の実践、応急処置②	25	動物愛護管理センター及び保健所、動物取扱業の見学
11	犬の飼育法・看護法の実践 犬の飼育について、看護法の実践、獣医師のかかり方について	26	動物愛護管理センター及び保健所、動物取扱業の見学
12	犬の飼育法・看護法の実践 動物看護師としての入院犬舎掃除実践①	27	動物愛護に関わるグループワーク
13	犬の飼育法・看護法の実践 動物看護師としての入院犬舎掃除実践②	28	後期まとめ
14	前期まとめ 総括的な前期まとめ	29	後期振り返り
15	振り返り 質疑応答とグループワーク	30	科目総まとめ

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業に関するレポート等を授業時に適宜指示する
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト（ファームプレス）
参考書	
評価方法・基準	評価の割合は、筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学実習Ⅱ	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Clinical NursingⅡ	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）

講師名	
実務経験概要	大下動物病院開業獣医師 大阪府堺市にて長きにわたり、小動物の臨床に従事。

授業の概要・目的

動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。また動物看護過程の一連のプロセスを理解する。

到達目標

動物看護師としての業務は多岐にわたり、病院での診察が行われるために様々な事を担当します。この科目では、1年次に行った事の復習も兼ねながら、学んだ知識や技術を、よりスムーズに行えるように習得する事を目指します。動物病院以外のスタッフの場合でも、獣医療に関する知識や技術は、動物を扱う上で必ず役立つと思います。動物看護師としての必要な基本的な知識、技術、検査手技の学習が目的です。

授業計画（テーマ・内容）

1	動物看護過程の実践（事例演習）の概要について理解する。	16	褥瘡を持つ動物の看護（体位変換など）ができる。
2	事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する。	17	入院及び栄養管理に関して総まとめを行う。
3	看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響を理解する。	18	入院及び栄養管理に関して振り返りを行う。
4	症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する。	19	本科目の総復習を行う。
5	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付けることができる。	20	
6	看護動物の援助の内容・方法を立案できる。	21	
7	動物看護計画を作成できる。	22	
8	動物看護記録を作成できる。	23	
9	動物看護過程の実践（事例演習）に関して総まとめを行う。	24	
10	動物看護過程の実践（事例演習）に関して振り返りを行う。	25	
11	入院及び栄養管理の概要について理解する。	26	
12	入院動物の管理、アセスメントができる。	27	
13	ケージの清掃、管理ができる。	28	
14	ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる。	29	
15	栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる。	30	

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥ （ファームプレス） ／ 動物看護実習テキスト （インターズー） ／ 動物病院検査技術ガイド （チクサン出版社）
参考書	なし。
評価方法・基準	実技試験及び筆記試験をともに100点満点で実施し、総合的に評価を行う。最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物外科看護学	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Surgery Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	2011年3月から2018年7月まで大阪府内の動物病院に勤務し、看護主任・広報部長を務め、飼い主向けシニア教室の開催に尽力。 2018年7月から兵庫県姫路市にてCon tutti－コントゥッティーを開業し、飼い主向け訪問シッター・介護サービス、動物病院向けセミナーを展開。

授業の概要・目的

犬や猫の幼齢期・高齢期特有の健康管理や看護方法を理解・熟知することは、動物看護師が獣医療の場面で獣医師をサポートしながら、動物のライフステージに合わせた入院中の環境作り・食事管理・精神的なケア・飼い主へのアドバイスを行う上で不可欠なものである。幼齢期では身体的・精神的な著しい成長が見られるが、その中でも新生仔期の哺育技術や、成長期の社会化に合わせた対応方法を学ぶことは、幼齢動物が健全に成長し看護を行うために重要な知識となる。また、高齢期では長寿化・高齢化の影響から起こる疾患に合わせた看護や介護、終末期のケアを、高齢動物や飼い主が体力的・精神的に負担を減らしながら行うことができるよう介助するための知識や技術が必要となる。動物病院での診察補助・入院管理・飼い主の在宅看護の場面で、幼齢・老齢動物の特徴に合わせた看護の知識・技術を理解する。

到達目標

犬や猫の生涯のうち幼齢期と老齢期という対極にあるライフステージの基本知識を学び、動物病院での診察補助・動物の取り扱い・入院管理・飼い主とのコミュニケーションに応用する。幼齢期・高齢期特有の注意すべき病態やケア方法を学び、動物の異常に気づくための知識を習得する。入院管理や在宅看護に生かす高齢期の看護・介護の仕方や終末期のサポート方法を理解する。

授業計画（テーマ・内容）

1	犬や猫の出生から看取りまでの一連のライフステージを理解する。	16	高齢犬・猫が抱える痛みとケアについて理解する。
2	犬と猫の幼齢期の特徴に合わせた体の取り扱い・健康チェックの仕方・衛生管理を理解する。	17	高齢犬の心臓疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。
3	犬の出生から新生仔期にまつわる看護ケア・技術を理解・習得する。	18	高齢犬・高齢猫の腎臓疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。
4	子犬期の食事内容の特徴・食事量の計算・あげ方を理解し、実践する。	19	高齢犬・高齢猫の腫瘍疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。
5	猫の出生から新生仔期にまつわる看護ケア・哺育技術を理解・習得する。	20	高齢犬・猫の介護が必要な体の状態・疾患・障害を説明できる。
6	子猫期の食事内容の特徴・食事量の計算・あげ方（離乳食）を理解し、実践する。	21	高齢犬・猫の認知機能不全症候群の症状や進行を抑えるための対策を説明できる。
7	幼齢犬・幼齢猫によくある病態・疾患を理解し、受け入れから入院管理まで理解する。	22	高齢犬・猫の食事内容の特徴を理解し、食事の介助方法を実践できる。介護に役立つグッズの活用方法を理解する。（犬4）
8	犬と猫の老化（体の変化）について学び、老化によって起こる日常生活の変化を説明できるようになる。	23	高齢犬・猫の介護方法(歩行・排泄の介助）と介護に役立つグッズの活用方法を理解し実践できる。（犬4）
9	高齢犬・猫の体の取り扱い方や、整えるべき基本的な飼育環境・入院環境について理解する。	24	寝たきりの高齢犬・猫の介護方法と介護に役立つグッズの活用方法を理解し実践できる。
10	高齢犬・猫の老化する体に合わせた入院中のお手入れ方法・健康管理・健康チェックの仕方を理解する。	25	幼齢動物・高齢動物のエマージェンシーや急変が起こりやすい場面と看護について理解する。
11	高齢犬・猫の予防医療とよくある病気を知り説明できるようになる。	26	犬や猫の終末期ケアと安楽死について理解する。
12	高齢犬・猫の在宅看護が必要になるよくある疾患と看護方法を理解する。	27	犬や猫の終末期に直面した飼い主へのサポートや遺族ケアについて理解する。
13	前期まとめ	28	後期まとめ
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に行う理解度を深めるための小テストでの復習を行う。授業内容のメモや実習内容を振り返ってノートの作成を行う。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①～⑥ （ファームプレス）
参考書	なし
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、授業中に行う小テスト10%、課題10%、出席率10%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	愛護・適正飼養	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	愛玩動物学Ⅰ	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Companion Animal Studies Ⅰ	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシャーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				

授業の概要・目的

伴侶動物の中でも主に猫に関して、歴史や品種、飼育管理法、動物の生態について学ぶ。

到達目標

猫の飼い主に、解りやすく正しい知識を伝えるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	オリエンテーションを行う。純血種/MIXの定義・多胎性・肉食について理解する。	16	ブリーディング①（健康な猫をブリードするための知識）について理解する。
2	LH/SH ・Male/Femaleの性格、飼い方、その他の違い・アメリカンSHについて理解する。	17	ブリーディング②（交配～出産まで）について理解する。
3	猫と犬の違い①（習性・体型・運動感覚等）について理解する。	18	ブリーディング③（出産～産後の母猫のケアー）について理解する。
4	猫と犬の違い②（種類・繁殖機能等）について理解する。	19	ブリーディング④（育児～人口哺乳）について理解する。
5	行動学①（体の造りによる行動）について理解する。	20	ブリーディング⑤(伴侶動物として、性格の良い猫に育てるための知識）について理解する。
6	行動学②（猫独特の行動）について理解する。	21	カラー遺伝①(ソリッド・アグーチ・ポイントカラー）について理解する。
7	CFA公認猫種DVD①を見る。	22	カラー遺伝②（優性色・劣性色）について理解する。
8	CFA公認猫種DVD②（猫種別の分類）を見る。	23	カラー遺伝③(雌のみのカラー遺伝）について理解する。
9	猫の健康チェック①を行う。	24	カラー遺伝④(両親から受け継ぐカラー遺伝）について理解する。
10	猫の健康チェック②を行う。	25	老猫のケアー①（高齢期の行動、体の変化）について理解する。
11	アンリカンカール/ベンガルのスタンダードについて学ぶ。	26	老猫のケアー②（家庭で出来ること）について理解する。
12	ノルウェージャンホレストキャットのスタンダードについて学ぶ。	27	老猫のケアー③(高齢期の病気）について理解する。
13	猫の血液型（FNI　猫新生児溶血性黄疸）について理解する。	28	猫のシャンプー(犬と違うテクニック）を学ぶ。
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜レポート等の課題を与える
教科書・テキスト	
参考書	CFAスタンダード訳本・猫の教科書（ペットライフ社）
評価方法・基準	筆記試験・課題提出物・出席率にて総合評価。最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	愛護・適正飼養	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	人と動物の関係学	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Human&Animal Relations	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)

講師名	
実務経験概要	獣医師免許取得後、勤務医として小動物臨床に従事ののち、現在は理学療法、食事指導、運動療法などのリハビリ診察を主に行っている。

授業の概要・目的

現在、伴侶動物（ペット）は家族の一員という立ち位置になってきており、それに伴い獣医療の在り方も変化してきている。病気を治療するだけでなく、動物との関わり方などの指導、実践も獣医療従事者に必要な能力である。本講義を通じて、獣医療に関わる者として、「人と動物がどのように関わってきたか」「関わることにより双方にどのような効果がもたらされるのか」について学び、人と関わっている動物達について、それぞれの現状や抱えている問題について知るとともに、複数の視点から考察をすることにより、知識の習得と、動物と人間がより良い関係を築いて行けるよう様々な状況に応じた対応が必要であることを理解する。また、獣医療従事者として、上記を踏まえた上で、動物の福祉への配慮、医療倫理、飼い主及び動物への様々なケアについて学び、対応について考察する。

到達目標

人と動物の関わり方について概説できるようになる。 伴侶動物をはじめとした様々な動物達の幸せとは何かを様々な視点から考え、自分なりの意見を述べることができるようになる。 獣医療従事者として様々な状況における動物との関わり方、飼い主との関わり方について臨機応変に対応できるようになる

授業計画（テーマ・内容）

1	人と動物の関わりの歴史と家畜化について　人と関わりのある動物とは	16	
2	動物が人に与える影響、また人が動物に与える影響について　動物介在活動とは	17	
3	動物の「権利」と「福祉」について	18	
4	産業動物の福祉（現状および問題点）について考える	19	
5	展示動物、実験動物、野生動物の福祉（現状および問題点）について考える	20	
6	使役動物とは何かを知り、その福祉（現状および問題点）について考える	21	
7	動物愛護とはなにか　動物愛護センターの役割とは何かについて	22	
8	伴侶動物の殺処分、遺棄についての現状を知り、考察する	23	
9	野良猫、地域猫、野犬　問題について知り、考察する	24	
10	伴侶動物の飼育における問題（多頭飼いや虐待）について知り、考察する	25	
11	伴侶動物における幸せとは何か、何ができるか、飼育前及び後教育について考察する	26	
12	災害時における動物（主に伴侶動物）への対応と備えについて	27	
13	前期まとめ	28	
14	前期学習内容の総括	29	
15	前期学習内容の振り返り	30	

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜レポートなどの課題を与える。
教科書・テキスト	なし。
参考書	動物看護コアテキスト①（ファームプレス）／愛玩動物看護師の教科書第1巻（緑書房）／その他授業中に適宜紹介する。
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率5%、授業態度5%、レポートなどの課題10%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物形態機能学	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Anatomy and Physiology of Animals	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)

講師名	
実務経験概要	かしはら動物病院開業獣医師 奈良県橿原市を中心に、小動物（主に犬と猫）診療に従事

授業の概要・目的

動物看護師を目指すにあたって、動物の解剖学およびその働き（生理学）についての基礎的な知識の習得を目的とする

到達目標

①動物看護師として適切な看護を行うための、動物の体のつくりとその役割についての正しい知識を身に着ける
②愛玩動物看護師の国家試験対策としての正しい知識を身に着ける

授業計画（テーマ・内容）

1	機能形態学総論 （ 生物学の復習・・・・①からだの基本構造）	16	機能形態学各論 No5 （泌尿器系の形態と機能・・・・・①腎臓と尿路の働き）
2	機能形態学総論 （ 生物学の復習・・・・②細胞と組織）	17	機能形態学各論 No5 （泌尿器系の形態と機能・・・・・②尿の生成と排泄
3	機能形態各論 No1 （運動器系の形態と機能・・・・①骨と骨格）	18	機能形態学各論 No5 （泌尿器系の形態と機能・・・・・③体液とその調節
4	機能形態学各論 Noi1 （運動器系の形態と機能・・・・②筋肉と関節）	19	機能形態学各論 No6 （神経系の形態と機能・・・・・①中枢神経系（脳と脊髄について9
5	機能形態学各論 No2 （循環器系の形態と機能・・・・・①心臓の形態）	20	機能形態学各論 No6 （神経系の形態と機能・・・・・②末梢神経系（自律神経と体性神経について）
6	機能形態学各論 No2（循環器系の形態と機能・・・・・②血液循環）	21	機能形態学各論 No7 （内分泌系の形態と機能・・・・①内分泌系とホルモン）
7	機能形態学各論 No2（循環器系の形態と機能・・・・ ③胎子循環とリンパ系）	22	機能形態学各論 No8 （内分泌腺の形態と機能・・・・内分泌腺の働き①視床下部・下垂体・甲状腺・副腎）
8	機能形態学各論 No3 （呼吸器系の形態と機能・・・・・①呼吸器系の基本構造）	23	機能形態学各論 No8 （内分泌腺の形態と機能・・・・内分泌腺の働き②膵臓・上皮小体・松果体など）
9	機能形態学各論 No3 （呼吸器系の形態と機能・・・・・②呼吸の仕組み	24	機能形態学各論 No9（造血組織と血液・・・・・①血液とその成分）
10	機能形態学各論 No4 （消化器系の形態と機能・・・・・①消化管と消化腺	25	機能形態学各論 No9 （造血組織と血液・・・・・②血液凝固と線溶系
11	機能形態学各論 No4 （消化器系の形態と機能・・・・・②消化管の機能	26	機能形態学各論 No10 （感覚器の形態と機能・・・・①皮膚の構造と機能）
12	機能形態学各論 No4 （消化器系の形態と機能・・・・・③消化腺（肝臓と膵臓の働き）	27	機能形態学各論 No10 （感覚器の形態と機能・・・・②眼球の構造と機能）
13	機能形態学各論 No4 （消化器系の形態と機能・・・・・④栄養素の代謝	28	機能形態学各論 No11 （感覚器の形態と機能・・・・③耳の構造と機能）
14	前期授業内容の復習と確認	29	後期授業内容の復習と確認
15	前期講義内容の総括	30	後期授業内容の総括

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業前に各自でテキストを確認（予習）して毎回の授業に臨む。 さらに授業終了後は各自で復習を行い知識の定着をすることが望ましい
教科書・テキスト	作成したオリジナルプリントを使用する
参考書	愛玩動物看護師の教科書 第1巻 （緑書房） 動物の体の構造と機能 （ファームプレス）
評価方法・基準	評価方法としては、筆記試験60％・授業内小テストおよび課題提出20％・出席率および授業態度20%にて総合評価を100％ととする
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物行動学	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Behaviour	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要	Dog as friends ＆ Healers ドッグセラピスト、ドッグトレーナー				

授業の概要・目的

犬に関する知識（歴史、行動の発達と機能、トレーニングの理論と応用）を学習する。学習した知識を実習犬とのトレーニングを通して、身につける。
エゴグラムを通して、自己理解と他者の行動パターンを予測しコミュニケーションに役立てる。

到達目標

学んだ知識と実習により、犬に信頼されるハンドラーとなる。
また、今後 活躍する場所で出会う飼い主さまとの円滑なコミュニケーション、及び犬に関する知識と実習のスキルを活かし、愛犬たちの問題解決に繋げる。

授業計画（テーマ・内容）

1	当方、自己紹介とパートナードッグによるデモンストレーション。 エゴグラムの実施。	16	・①トイレトレーニングとハウストレーニング
2	・犬具の紹介、トレーニングの必要性への理解.。	17	・②トイレトレーニングとハウストレーニング
3	・動物行動学（馴化と感作、古典的 及び オペラント条件付け）	18	・実習犬5（①馴化：マッサージ、グルーミング） →歯ブラシ、ブラシに慣れる練習
4	・動物行動学（オペラント条件付け：ソーンダイク、三項随伴性、反応形成）	19	・（②馴化：マッサージ、グルーミング）
5	・犬の歴史、犬種傾向 （前回までの復習、お座り、ふせ、マテ）	20	・（①甘噛み、いたずらへの対処→out、出して…の練習）
6	・犬の行動と発達と機能、維持行動 （前回までの復習、横について歩く）	21	・（②甘噛み、いたずらへの対処。前回の復習）
7	・犬の問題行動とその治療	22	・（音に関する馴化）
8	・古典的条件付け、馴化、鋭敏化、系統的脱感作、拮抗条件付け	23	・（おもちゃに関する馴化）
9	・古典的条件け、消去、消去バースト、自発的回復	24	・（フード、おやつ、食べ物に関する馴化）
10	・オペラント条件付け（スキナーによるオペラント条件付けの種類、ソーンダイクの効果法則）	25	・散歩に関するマナー、持ち物
11	・オペラント条件付け（三項随伴性、逐次接近法、プレマックの原理→例を考察）	26	・（教室内 及び 校外での散歩練習）
12	・（これまでの学習内容の確認）	27	・（①担当犬の得意な動きを見極め、トリックに挑戦）
13	①（前期学習内容の総括とまとめ）	28	・（②前回の挑戦の続き）
14	②（前期学習内容の総括とまとめ）	29	・（③前回までの挑戦の成果発表）
15	前期学習内容の振り返り	30	・後期学習内容の総括 及び 振り返り

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業前後のレジュメの確認。各自、授業内の必要事項をノートにまとめる。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト（第二版）4（ファームプレス）
参考書	犬に信頼されるテクニック（誠文堂新光社）、犬はあなたをこう見ている（河出書房新社）
評価方法・基準	筆記 及び 実技試験を実施し、合わせて100点満点とする。評価は出席率も加味し総合的に行う。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	公衆衛生学	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Public Health	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック　開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事

授業の概要・目的

個々の動物の命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生について学び、さまざまな疾病予防、健康維持および増進に役立てる総合的な科目である。人畜共通感染症・食品衛生・環境衛生について学ぶ。

到達目標

公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全に活かせる知識を身につけた上で、正しい衛生指導ができるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	公衆衛生とは何かを理解し、将来の仕事への意義について考える。	16	寄生虫性疾患の概要について理解する。
2	微生物とは何かを理解し、細菌を身近に感じられるようになる。	17	寄生虫性ズーノーシス（回虫症）について理解する。
3	感染症について（病原体・感染経路・宿主）について理解する。	18	寄生虫性ズーノーシス（鉤虫症・アニサキス症・フィラリア症など）について理解する。
4	感染症について（感染と防疫）について理解する。	19	寄生虫性ズーノーシス（エキノコックス症）について理解する。
5	細菌の構造と特徴について理解する。	20	寄生虫性ズーノーシス（マンソン裂頭条虫など）について理解する。
6	ウイルスの構造について理解する。	21	寄生虫性ズーノーシス（トキソプラズマ症）について理解する。
7	微生物の殺菌と消毒について理解する。	22	寄生虫性ズーノーシス（ジアルジア症・クリプトスポリジウム症など）について理解する。
8	リケッチア・クラミジア・プリオンについて理解する。	23	寄生虫性ズーノーシス（外部寄生虫症）について理解する。
9	狂犬病について理解する。	24	寄生虫性ズーノーシス（SFTSなど）について理解する。
10	狂犬病予防法と狂犬病ワクチンの接種時期について理解する	25	食品衛生（自然毒など）について理解する。
11	パスツレラ症と猫ひっかき病について理解する。	26	食品衛生（細菌性食中毒）について理解する。
12	レプトスピラ症とワクチンについて理解する。	27	食品衛生（細菌性食中毒）について理解する。
13	ブルセラ症・オウム病などの細菌性ズーノーシスについて理解する。	28	まとめおよび統一試験対策を行う。
14	皮膚糸状菌について理解する。	29	まとめおよび統一試験対策を行う。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。
教科書・テキスト	愛玩動物看護師の教科書　（緑書房）
参考書	認定動物看護師教育コアカリキュラム準拠　（エドュワードプレス）・動物看護コアテキスト（ファームプレス）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100％で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物感染症学Ⅰ	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Infection Ⅰ	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）

講師名	
実務経験概要	動物病院にて動物看護師として約27年勤務 飼い主に犬や猫の日常の健康管理の指導等なども行う 関西動物看護教育研究会に所属

授業の概要・目的

現在、国内において犬や猫などの愛玩動物の多くが室内で飼育される傾向にある。これはヒトと動物の距離が近くなり、相互に影響を及ぼす機会が増える一因になると思われる。特に感染症には、動物のみならず人にも影響を及ぼすものがあるため、飼い主に身体的・精神的にも損害を起こしかねない。将来、動物病院などへの就職を希望する学生は、正しい知識を身に着けそれを伝えることができるようになる必要がある。本開講科目では感染・発症の定義、感染症の成り立ちについて学び、衛生管理、予防法など感染症対策の基礎を習得する。また感染防御に重要な免疫学の基礎についても学ぶ。本講座では主にイヌやネコの感染する微生物と寄生虫について、分類・構造・感染経路・予防法を学び、動物と飼い主の健康をサポートできる人材を目指す。

到達目標

病原微生物や寄生虫の伝播様式や発症のメカニズムを理解し、感染症の予防と看護、飼い主へのアドバイスに活かせるようになる

授業計画（テーマ・内容）

1	外部寄生虫の分類、基本的な構造・特徴について理解する。	16	病原微生物の分類・特徴、感染経路について理解する。
2	外部寄生虫（ノミ）の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	17	自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞について理解する。
3	外部寄生虫（シラミ・ハジラミ）の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	18	獲得免疫（細胞性免疫）について理解する。
4	外部寄生虫（マダニ）の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	19	獲得免疫（液性免疫）について理解する。
5	外部寄生虫（ヒゼンダニ類）の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	20	抗体の構造と働き、分類について理解する。
6	外部寄生虫（ツツガムシ類）の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	21	個体免疫と集団免疫、受動免疫と能動免疫について理解する。
7	内部寄生虫の分類、基本的な構造・特徴について理解する。	22	狂犬病について理解する。
8	線虫類（回虫・鉤虫・鞭虫）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	23	狂犬病ワクチンと犬の登録について理解する。
9	吸虫類（壺形吸虫）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	24	混合ワクチンで予防できる犬と猫の疾患について理解する。
10	条虫類（瓜実条虫・マンソン裂頭条虫）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	25	混合ワクチン接種の意義・種類（コア・ノンコアワクチン等）について理解する。
11	線虫類（猫条虫・その他）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	26	混合ワクチンの種類（生ワクチン・ノンコアワクチン）について理解する。
12	原虫類（コクシジウム類）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	27	ワクチン接種のプログラム・接種後の注意点について理解する。
13	原虫類（ジアルジア・トリコモナス）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	28	ワクチン接種に伴う副反応（即時型・遅延型アレルギー）について理解する。
14	原虫類（バベシア・その他）の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	29	ワクチン接種に伴う副反応（ワクチン接種部位肉腫）について理解する。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に使用したワークシートや教科書を参考にして資料を作成する。
教科書・テキスト	動物看護の教科書第3巻（緑書房）
参考書	犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイド （インターズー） / 動物看護コアテキスト （ファームプレス） / 動物臨床看護学 （インターズー）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、提出物10%、授業内小テスト１０%で最高評価点を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物看護学概論	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Introduction to Animal Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	認定動物看護師／アニマルサポートオフィス・ミーチョ　代表／（社）ペットマッサージ協会認定　ペット東洋医学アドバイザー 日本動物看護学会　理事／（一社）関西動物看護教育研究会　代表／（一社）日本ペットサービス研究会　理事

授業の概要・目的

看護とは知識や経験のみで成るものではない。看護を行う人間の考え方や人となりによってはその行為は「看護」ではなくなる。
本教科では、獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解したうえで職業意識を形成することをもって看護に必要な心構えを習得する。

到達目標

動物看護師という職業について説明できる。
動物看護師としての思考回路を確立し、ヒトや動物に動物看護師として接することができる。

授業計画（テーマ・内容）

1	オリエンテーション（自己紹介・授業の心構え・ルールについて）を行う。	16	綱領6～9「動物を守るために必要なこと」「責任とは」「学習bの継続はどのように行うか」「協働とは。協働のために必要なことは」を学ぶ。
2	動物看護職とは、専門職とは何か理解する。	17	綱領10「看護実践」とは 「看護管理」とは 「看護教育」とは 「看護研究」とは 綱領11「動物看護学の発展」とは 綱領12「社会からの信頼を得るために必要なこと」
3	現在の獣医療・動物看護職に至るまでの歴史、職能団体について理解する。	18	綱領13「公衆衛生」とは　なぜ私たちに必要なのか 綱領14自分たちでできる「環境問題」への取り組み 綱領15まとめ
4	国家資格とは何か、愛玩動物看護師法について理解する。	19	生命倫理の4原則について学ぶ。安楽死とは何かを理解する。
5	ナイチンゲールとヘンダーソンの看護理論について学ぶ。	20	安楽死はどのような場合に選択されるべきか考える。（グループワーク）
6	医療と看護の違いについて学ぶ。インフォームドコンセントの重要性を理解する。	21	安楽死に関して動物看護師が知っておきたいことを理解する。
7	動物看護の対象とその役割、アビリティーモデルについて学ぶ。	22	グリーフワークの理解とグリーフケアで自分たちができること（ペットロス含む）を考える。
8	動物看護過程の定義とその必要性について理解する。	23	看護倫理原則とは何か理解する。
9	看護計画の立案方法と記入方法について理解する。	24	援助者として目指すべき人格とは何か理解する。
10	倫理綱領1「動物の権利・アニマルニーズ・5つの自由などについて」を学ぶ。	25	ケアの倫理とは何か理解する。
11	倫理綱領1「動物の福祉とは？愛護とは？動物看護師が関わる動物は？」を学ぶ。	26	倫理問題とは何か（倫理問題の見極め・用語解説・分類方法）理解する。
12	倫理綱領2「誠意をもって接するために必要な事とは？」（なぜ、動物福祉は必要か？グループワーク）2誠意　3信頼関係　4知る権利決定権　5守秘義務	27	「道徳的不確かさ」の事例検討を行う。
13	倫理綱領3「信頼関係を成り立たせるために必要な事」、倫理綱領4「知る権利・決定権を尊重するためには？」を学ぶ。	28	倫理問題の事例検討（step1～3）を行う。
14	倫理綱領5「守秘義務とは？守秘の範囲と方法とは？」を学ぶ。	29	倫理問題の事例検討（step4）を行う。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業内に提示した教科書の個所を熟読し、課題があれば期限までに課題を仕上げて提出する。 授業終了後にはその日のノートを教科書を踏まえてまとめ、分からない点は次回に質問できるようにする。
教科書・テキスト	愛玩動物看護師の教科書第3巻（緑書房）
参考書	なし。
評価方法・基準	期末筆記試験70%、グループワークへの参加意欲10%、提出物20 %で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物形態機能学実習	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Anatomy and Phisiology of Animals	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				

授業の概要・目的

理学療法を行う上でのアセスメントの重要性を理解し、リハビリプログラムの組み立て、実践を行えるようにする
理学療法におけるアセスメント及び、動物の症状・病態を理解し、プログラムを組む

到達目標

アセスメントからリハビリ計画を立て実践し、再アセスメントによる流れを理解する
病態を理解し、その動物に必要なリハビリ内容を考える

授業計画（テーマ・内容）

1	マッサージ 動物の骨格筋肉を学ぶ	16	
2	マッサージ 動物の皮膚について学ぶ	17	
3	マッサージ 動物の神経について学ぶ	18	
4	アセスメントⅡ 歩様検査・整形学的検査	19	
5	アセスメントⅢ 神経学的検査	20	
6	各論 マッサージ・ストレッチ	21	
7	各論 エクササイズ	22	
8	各論 物理学的治療	23	
9	プログラムの組み立て 動作評価	24	
10	プログラムの組み立て 評価に基づく理学療法プログラムの策定	25	
11	プログラムの組み立て プログラムの実施と再評価	26	
12	後期まとめ	27	
13	振り返り	28	
14	神経病 脳疾患	29	
15	まとめ 統一試験問題の予定	30	

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜レポート等の課題を提示する
教科書・テキスト	愛玩動物看護コアテキスト（ファームプレス）
参考書	
評価方法・基準	筆記試験100%
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物内科看護学実習	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Internal Medicine Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)
講師名					
実務経験概要	動物看護師				

授業の概要・目的

犬や猫の日常的な健康管理や、内科診療に必要な手技を実践する
犬や猫の基本的な取り扱いから、日常的な健康管理とその手技を身に付ける
動物看護師、ドッグトレーナー、ペットショップなど様々なジャンルで必要となる基本的な技術・知識をより深く学び、実践的に使えるように学習を行う。

到達目標

動物のバイタルサインの評価とカルテへの記録、動物への基本的な内科的処置を行えるようにする

授業計画（テーマ・内容）

1	オリエンテーション 看護実習室の使い方	16	ガイダンスと身体検査 授業のガイダンス。ならびに身体検査を行います
2	犬の健康管理について 犬の健康管理について、犬舎掃除の仕方	17	ズーノーシス・環境衛生など 人と動物の共通感染症に関して学び、防疫、予防などに関して知識を深めます。
3	動物看護師とは 動物看護師の在り方、仕事について	18	解剖学 ラットの解剖を行い、臓器の形態などを学びます
4	カルテ 日常的に使われるカルテ用語	19	解剖学 ラットの解剖を行い、位置関係などを学びます
5	カルテ 症例をもとにカルテを作成する	20	画像診断 レントゲン検査に関して学びます。
6	保定・身体一般検査 基本的な保定、身体一般検査	21	画像診断 レントゲン解剖学を中心に放射線防護に関して学びます。
7	小テスト これまでの授業の小テストを行う	22	血球検査 血球検査をまなびます
8	保定・身体一般検査 様々な診察に合わせた保定と身体一般検査	23	血液生化学検査 血液化学検査機器の使い方、異常値の扱いを学びます
9	保定・身体一般検査 道具を使った保定と身体一般検査	24	泌尿器疾患 代表的な泌尿器疾患と尿検査・検査の適応などを学びます。
10	保定・身体一般検査 2人1組での保定、身体一般検査	25	消化器疾患 代表的な消化器疾患と便検査他の検査と異常の取り扱いについて学びます。
11	猫 実習猫の当番について	26	眼科疾患・皮膚疾患 眼科疾患と皮膚科疾患の検査に関して学びます。
12	猫 猫の保定と身体一般検査	27	神経疾患 代表的な神経疾患に関して学び、神経学的検査の意義と適応について学びます。
13	猫 猫の保定と身体一般検査	28	循環器疾患 循環器疾患について学び、循環器系の検査に関して概要を学びます。
14	まとめ	29	まとめ
15	振り返り	30	振り返り

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に書き留めた内容をもとに、ノートを作成する。
教科書・テキスト	
参考書	動物看護実習テキスト
評価方法・基準	筆記試験/実技試験
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	生命倫理・動物福祉	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Welfare and Ethics	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)

講師名	
実務経験概要	獣医師

授業の概要・目的

・動物病院における福祉の考え方について、学び、考える、また事例を知る
・グリーフケア、終末期医療、安楽死について学ぶ
・トリアージや疼痛サインについて学ぶ
・動物看護師としての対応や考え方ができるようになる
・自分で考え、それを表現できるようになる

到達目標

・動物看護師としての対応や考え方ができるようになる
・自分で考え、それを表現できるようになる

授業計画（テーマ・内容）

1	動物看護師の役割/動物病院における福祉① 動物看護師とは、(愛玩動物看護師)について知る Five freedomsの観点から動物病院の福祉について考える	16	
2	動物病院における福祉②/実際の取り組み例 動物病院における福祉としてどの様な事ができるか、注意すべきか 事例をふまえながら知る	17	
3	ストレスとストレスサイン ストレスとは何か 動物のストレスサインにはどの様なものがあるか知る	18	
4	疼痛サイン、ケーススタディー 疼痛サインについて知る 様々な状況における、動物への接し方、保定について考察する	19	
5	老齢期と終末期のケア 老齢期と終末期のケア、QOLについて オーナーへの接し方について考える	20	
6	ケーススタディー 患者の気持ちを症例を適して知り、考え、 看護師としての対応を考える	21	
7	安楽死 安楽死についての知識を得、考察する	22	
8	ペットロスとグリーフケア① ペットロスとグリーフケアについての基本的な知識を得る	23	
9	ペットロスとグリーフケア② 動物か亡くなった際の看護師としての対応について考える	24	
10	緊急時の対応 トリアージの方法 緊急時における院内での対応について知る	25	
11	前期まとめの準備 前期まとめの対策と総まとめ グループ分け	26	
12	前期まとめ 総括的なまとめ	27	
13	振り返り① 質疑応答	28	
14	振り返り② グループワーク	29	
15	しつけと災害時について 必要なしつけと災害時の対応について知る	30	

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	
教科書・テキスト	
参考書	動物看護コアテキスト/ファームプレス
評価方法・基準	・授業中のグループワーク、出席率、態度、課題及びに口頭試問の総合点
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物医療コミュニケーション	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Medical Communication	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師として動物病院のスタッフ研修・養成に従事。				

授業の概要・目的

動物看護師として、飼い主及び従事する職場のスタッフからの信頼を得て、更に社会に貢献できる人材となるために必要なスキルを修得する。挨拶・身だしなみの重要性を理解し、言葉遣い、立ち居振る舞いなど、主に飼い主の対応に必要な基本を身につける。また、受付業務や飼い主への対応など、高頻度業務を実技で修得する。

到達目標

動物看護師は動物病院の顔となり、また、飼い主と獣医師を繋ぐとても重要なポジションとして従事することも多い。そのため動物医療を提供するチームの一員であることを自覚したうえで必要なスキルを修得し、適切なサービスマインドやビジネスマインドが発揮できる人材となる。

授業計画（テーマ・内容）

1	自己分析・他己分析を行い、自分の経験の棚卸と将来像について明確にする。	16	自己表現スキル（人間関係の持ち方・仕事で必要な表現技術）について理解する。
2	自己分析・他己分析を行い、自分の経験の棚卸と将来像について明確にする。	17	様々な感情（感情の性質を学び『怒り』の感情を掘り下げる）について理解する。
3	第一印象・社会人のスキル（身だしなみ・健康管理）について理解する。	18	社会的スキル（来客対応・訪問時のマナー）について理解する。
4	傾聴力（聴き方）・伝達力（伝え方）について理解する。	19	社会的スキル（文書作成・メールのマナー）について理解する。
5	心に寄り添う、共感力の高め方について理解する。	20	社会人としての自覚（時間管理・健康管理・公私の区別・失敗した時など）について理解する。
6	コミュニケーションスキル（ノンバーバルコミュニケーション）について理解する。	21	サービスマインド（動物病院におけるサービスマインド）について理解する。
7	ビジネスマナー（敬語の種類）について理解する。	22	コミュニケーションのスキルアップを図り、社会人になるための準備をする。
8	ビジネスマナー（敬語の使い方）について理解する。	23	受付・会計業務（高頻度業務についての知識・技術を深める）について理解する。
9	ビジネス敬語に慣れて、使うことができるようになる。	24	高頻度業務の実技（グループワーク）を行い、理解を深める。
10	臨床の現場での高頻度敬語について理解する。	25	高頻度業務の実技（グループワーク）を行い、理解を深める。
11	履歴書の特性について理解する。	26	電話の掛け方・電話の受け方・電話の特性について理解する。
12	履歴書の作成に必要な下準備について理解する。	27	電話の掛け方・受け方（グループワーク）を実践し、修得する。
13	履歴書を作成する。	28	電話の掛け方・受け方（グループワーク）を実践し、修得する。
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めた内容をもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	Hand-book of LIFE STYLE・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト
参考書	なし。
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験65%、出席率及び課題35%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物内科看護学	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Intermal Medicine Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)

講師名	
実務経験概要	大阪第一警察犬訓練学校で警察犬の訓練方法を学び、後独立開業、主に家庭犬訓練を行う、2016年に「犬の幼稚園　ワンツウクラブ」を設立。

授業の概要・目的

動物病院で来院が多い犬や猫についてそれぞれの特徴、動物行動学を学ぶ。
犬の習性や犬種について知る。
問題行動について知り、その解決方法について広く学ぶ。
FCI10グループJKCに登録されている犬種を知り、その身体的特徴や行動習性の特徴を学ぶ。
これらの情報を学ぶことにより、より信頼される動物看護師として活躍できることを目指す。

到達目標

動物病院に来院する犬や猫について行動学的見地から判断したり、対応したりすることができるような知識を適用することができる。
動物病院に来院が多い犬についてその名前や様々な犬種特徴を認識でき、その情報を活用することができる。

授業計画（テーマ・内容）

1	挨拶、自己紹介、授業の目的・目標の確認、授業全般について理解する。	16	
2	犬種グループ(FCI/JKC)について理解する。血統書について理解する。	17	
3	1G　牧羊犬・牧畜犬の種類とその特徴について理解する。犬の役割について理解する。	18	
4	2G　使役犬の種類とその特徴について理解する。ペットロスについて学ぶ	19	
5	3G　テリアの種類とその特徴について理解する。犬の法律（トラブル対処）について	20	
6	犬の維持行動。摂食行動、捕食行動ついて理解する。	21	
7	繁殖について。犬の交配について理解する。Ⅰ	22	
8	繁殖について。犬の交配について理解する。Ⅱ	23	
9	しつけ・トレーニングの基本。古典的条件づけ、オペラント条件づけを理解する。	24	
10	問題行動と総論1 問題行動の改善方法を理解する。	25	
11	問題行動と総論2 問題行動の改善のためのツールや環境設定を理解する。	26	
12	犬の問題行動について1　家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	27	
13	犬の問題行動について2　家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	28	
14	前期総合復習でさらに踏み込んだ理解を確認する。	29	
15	前期学習内容の総括を行う。	30	

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。犬種カードを作成する。
教科書・テキスト	人と動物の関係、動物の行動と健康管理・ジャパンケンネルクラブホームページ「世界の犬」
参考書	なし。
評価方法・基準	講義後レポートを提出、評価は講義後レポートと期末テスト内レポートで評価する。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物内科看護学	開講年度	2023	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Internal Medicine Nursig	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要	大阪府の動物病院で動物看護師として勤務後、大阪ECO動物海洋専門学校に勤務				

授業の概要・目的

動物看護を行う上で基礎となる犬、猫の飼養管理について学び、実践する。犬、猫が健康を維持するためには正しい飼養管理を行う必要があり、動物看護師が行う日々の健康チェックや動物病院で動物看護師が主体となって行う処置や検査方法を学び、修得する。

到達目標

犬、猫の日々の飼養管理を行うことで健康な動物の状態を知る。動物看護師として臨床看護に必要な知識、技能を身に付ける。

授業計画（テーマ・内容）

1	動物看護を行う上での基礎を学ぶ。	16	尿検査の目的、方法について理解する。
2	動物看護の職域・資格・社会での活躍について学ぶ	17	便検査の目的、方法について理解する。
3	犬の取り扱い、保定の目的、方法を理解し、実践する。	18	注射器の取り扱い、注射法を学ぶ。
4	犬の健康とは何か、健康診断の内容、目的を理解する。	19	採血の目的と方法を理解する。
5	猫の取り扱い、保定の目的、方法を理解し、実践する。	20	採血時の保定を実践する。
6	猫の健康とは何か、健康診断の内容、目的を理解する。	21	医薬品の取り扱い方法を学ぶ。
7	カルテ用語、カルテの記入の仕方を学ぶ。	22	医薬品の投与方法を実践し、身に付ける。
8	バイタルサインの測定と評価方法を学び、実践する。	23	輸液法（輸液準備、ラインのつなげ方）を学び、実践する。
9	院内におけるチーム医療における動物看護師の役割を理解する。	24	輸液法（輸液の意味、必要性）を理解する。
10	飼い主に向けたチーム医療における動物看護師の役割を理解する。	25	犬・猫の歯科知識を理解する。
11	身体検査に必要な項目（歩様、意識レベルの評価）を学び、評価をする。	26	犬・猫の眼科科知識を理解する。
12	身体検査に必要な項目（BCS、体表リンパの確認と評価）を学び、評価する。	27	犬・猫の皮膚科知識を理解する。
13	身体検査・アセスメントを様々な犬で行い、健康な犬について学ぶ。	28	後期学習内容の総括を行う。
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の振り返りを行う。
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	保定・身体検査・アセスメントを実践する。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥ （ファームプレス） ／ 動物看護実習テキスト （インターズー） ／ 楽しく学べる動物看護（インターズー）
参考書	同上
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験にて、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物繁殖学	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal(Dog)Breeding	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)

講師名	
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック　開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事

授業の概要・目的

繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する。

到達目標

繁殖に関わるしくみを理解し、正しい繁殖と新生児の管理の知識と技術を伝えることができるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	繁殖とは　繁殖の際に考えるポイント	16	
2	繁殖季節と発情周期　動物の性周期	17	
3	犬と猫の生殖器とその特徴	18	
4	犬の繁殖生理①　犬の性周期について	19	
5	犬の繁殖生理②　繁殖に関わるホルモン	20	
6	犬の繁殖生理③　交配適期と膣スメア検査	21	
7	猫の繁殖生理　猫の性周期	22	
8	交配様式と妊娠診断	23	
9	妊娠中の健康管理	24	
10	分娩と介助	25	
11	新生仔のケア	26	
12	遺伝とは①　遺伝の基礎知識	27	
13	遺伝とは②　遺伝性疾患	28	
14	遺伝とは③　毛色遺伝子	29	
15	前期学習内容の総括を行う。	30	

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト（ファームプレス）
参考書	認定動物看護師教育コアカリキュラム準拠　（エドュワードプレス）・愛玩動物看護師の教科書　（緑書房）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物病理学	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Pathology	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)

講師名	
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック　開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事

授業の概要・目的

様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、主要などの項目について学ぶ。

到達目標

各疾病のメカニズムに関して知り、動物病院における看護に役立てる。

授業計画（テーマ・内容）

1	神経系疾患（疾患の仕組みと鎮痛薬・鎮静薬・抗けいれん薬等）について理解する。	16	
2	呼吸器系疾患（疾患の仕組みと鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬等）について理解する。	17	
3	循環器・泌尿器系疾患（疾患の仕組みと血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬等）について理解する。	18	
4	循環器・泌尿器系疾患（疾患の仕組みと血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬等）について理解する。	19	
5	消化器系疾患（疾患の仕組みと制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬等）について理解する。	20	
6	消化器に作用する薬物（疾患の仕組みと制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬等）について理解する。	21	
7	代謝・内分泌系疾患（疾患の仕組みと糖尿病治療薬・甲状腺治療薬・ステロイドホルモン）について理解する。	22	
8	代謝・内分泌系疾患（疾患の仕組みと糖尿病治療薬・甲状腺治療薬・ステロイドホルモン）について理解する。	23	
9	血液・免疫系疾患（疾患の仕組みと抗貧血薬・抗炎症薬・免疫抑制薬）について理解する。	24	
10	血液・免疫系疾患（疾患の仕組みと抗貧血薬・抗炎症薬・免疫抑制薬）について理解する。	25	
11	化学療法薬（消毒薬・殺虫薬・抗菌薬・抗真菌薬・駆虫薬・抗腫瘍薬）について理解する。	26	
12	化学療法薬（消毒薬・殺虫薬・抗菌薬・抗真菌薬・駆虫薬・抗腫瘍薬）について理解する。	27	
13	化学療法薬（消毒薬・殺虫薬・抗菌薬・抗真菌薬・駆虫薬・抗腫瘍薬）について理解する。	28	
14	後期学習内容の総括を行う。	29	
15	後期学習内容の振り返りを行う。	30	

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ （ファームプレス）
参考書	なし。
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物薬理学	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Phamacology	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	勤務獣医師として、臨床医療に長年従事

授業の概要・目的

臨床の現場では欠かすことのできない薬物治療について、薬理作用と作用機序、薬物の体内動態、有害作用や、代表的な薬物の作用、副作用を理解し、その必要性や、適応とされる病態、投薬時の注意点などについて知識を深める。

到達目標

臨床の現場で使用される薬物の特性を学び、投薬前後での病態の変化にいち早く気づけるようになり、また、飼い主への服薬指導が的確に行えるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	薬物の基本知識（薬物治療の概念・薬理作用）について理解する。	16	神経系に作用する薬物（鎮痛薬・鎮静薬）について理解する。
2	薬物の基本知識（薬物動態）について理解する。	17	神経系に作用する薬物（抗けいれん薬・問題行動治療薬）について理解する。
3	薬物の有害作用（副作用・中毒作用・薬物アレルギー・薬物依存・耐性）について理解する。	18	呼吸器系に作用する薬物（鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬）について理解する。
4	薬効に影響を与える因子について理解する。	19	循環器・泌尿器系に作用する薬物（血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬）について理解する。
5	薬物の取り扱い（薬物の剤形の違い・投与方法）について理解する。	20	消化器に作用する薬物（制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬）について理解する。
6	薬物の分類や法規を学び、毒薬・劇薬・麻薬などの取り扱い方を理解する。	21	代謝・内分泌に作用する薬物（糖尿病治療薬・甲状腺治療薬）について理解する。
7	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	22	代謝・内分泌に作用する薬物（ステロイドホルモン）について理解する。
8	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	23	血液・免疫系に作用する薬物（抗貧血薬・抗炎症薬）について理解する。
9	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	24	血液・免疫系に作用する薬物（免疫抑制薬）について理解する。
10	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	25	化学療法薬（抗菌薬）について理解する。
11	神経系に作用する薬物（全身麻酔薬）について理解する。	26	化学療法薬（抗真菌薬）について理解する。
12	神経系に作用する薬物（局所麻酔薬）について理解する。	27	化学療法薬（駆虫薬・殺虫薬・抗腫瘍薬）について理解する。
13	寄生虫に作用する薬物（原虫・蠕虫・衛生動物）について理解する。	28	化学療法薬（抗腫瘍薬）について理解する。
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に書き留めた内容をもとに、ノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ （ファームプレス）
参考書	なし。
評価方法・基準	評価の割合は、筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床検査学実習	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Clinical Examination	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	90 (6)
講師名					
実務経験概要	小動物臨床経験15年				

授業の概要・目的

動物病院にて、動物看護師として働くための最低限の知識を身につける。

到達目標

動物病院にて、動物看護師として働くための最低限の知識を身につける。

授業計画（テーマ・内容）

1	身体検査について	16	レントゲン(腹部、胸部)
2	採血法と保定法について	17	レントゲン(骨格)
3	CBC、血液塗抹 ①	18	超音波検査
4	CBC、血液塗抹 ②	19	CT、MRI検査、内視鏡
5	生化学検査 ①	20	筋骨格の解剖
6	生化学検査 ②	21	神経学的検査
7	クロスマッチ、凝固系検査	22	整形外科的検査 ①
8	尿検査 ①	23	整形外科的検査 ②
9	尿検査 ②	24	耳垢検査、外耳洗浄
10	便検査 ①	25	歯、歯周疾患、口腔疾患
11	便検査 ②	26	眼科検査
12	皮膚検査、シャンプー	27	包帯法、腹帯
13	血液検査の復習	28	動物の理学療法
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の後期総括を行う。
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。
教科書・テキスト	なし
参考書	なし
評価方法・基準	実技試験・筆記試験・出席率から総合的に評価を行う。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物栄養学	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Nutrition	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要	大阪府内の動物病院で獣医師として勤務				

授業の概要・目的

生命維持にとって栄養摂取は不可欠なものであり、どのようなものを摂取するかによって健康状態は大きく左右される。動物たちは食餌内容を自ら選択することができないため、与える物及びその与え方を吟味するのは飼育者の責務である。また、多くの疾患の管理をするにあたって、食餌療法の存在意義は大きい。従って、対象となる疾患の病態を理解した上で適切に食事管理をしていく必要がある。本授業では栄養素やペットフードに関する基礎知識を習得し、病態と食餌を関連付けて理解することを目的とするものである。

到達目標

飼い主に食餌の選び方、与え方を説明できるようになる。飼い主に代わって食餌を吟味し、評価できるようになる。病態に関連付けて、なぜその食餌療法が必要なのかを飼い主に説明、アドバイスできるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	食餌の意味、食性とは何か理解する。	16	消化器疾患の食餌管理②（下痢以外の消化器症状）について理解する。
2	ビタミン・ミネラルについて理解する。	17	肥満に対する食事管理（効果的な減量）について理解する。
3	炭水化物の構造と働きについて理解する。	18	糖尿病の食餌管理について理解する。
4	蛋白質の構造と働きについて理解する。	19	下部尿路疾患の食事管理（ストルバイトとシュウ酸カルシウム尿症）について理解する。
5	脂肪の種類と性質について理解する。	20	下部尿路疾患の食事管理（その他の結晶尿と特発性膀胱炎）について理解する。
6	脂肪の構造と働きについて理解する。	21	慢性腎疾患の食事管理について理解する。
7	カロリー計算と維持期の食事管理について理解する。	22	慢性心不全の食事管理について理解する。
8	成長期の食事管理について理解する。	23	アレルギーの機序について理解する。
9	高齢期の食事管理について理解する。	24	アレルギー性疾患の食事管理について理解する。
10	ペットフードとは何か（定義と種類、市場）を理解する。	25	肝疾患の食事管理について理解する。
11	ペットフードの取り扱い方、保存法について理解する。	26	担癌動物に対する栄養支持について理解する。
12	ペットフードの評価の仕方、表示について理解する。	27	後期授業内容の総括を行う。
13	消化器疾患の食事管理①（下痢）を理解する。	28	後期学習内容の振り返りを行う。
14	前期授業内容の総括を行う。	29	関節炎、認知症、甲状腺機能亢進症などに対する食餌の介入について理解する。
15	前期授業内容の振り返りを行う。	30	後期授業内容のまとめを行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	配布資料と板書をもとに自作のノートを作成する。
教科書・テキスト	毎回授業資料を配布する。
参考書	動物栄養学　日本動物看護職教会認定試験教本　（Inter Zoo）／ 小動物の臨床栄養学　（Mark Morris Institute）／ 基本からよくわかる犬と猫の栄養管理　（Inter Zoo）／ ペット栄養管理士養成講習会テキスト　全3冊　（日本ペット栄養学会）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。出席率は考慮しない。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学各論	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Itemized Theory of Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)

講師名	
実務経験概要	かしはら動物病院開業獣医師 奈良県橿原市を中心に、小動物（主に犬と猫）診療に従事

授業の概要・目的

主に犬と猫によくみられる疾患についての正しい知識（疾病の概要・症状・原因・検査・治療等）を学び、それを基礎にして動物看護師として、よりよい看護計画を作成することができるようになることを目的とする

到達目標

①主に犬猫の色々な疾患に対する正しい知識の習得を第一の目標とする。
②疾患についての正しい知識を基礎に、それぞれの症例に合わせた最良の看護計画を作成し、それを実践できるようにする。
③愛玩動物看護師国家試験に合格出来るレベルの知識を身に着ける

授業計画（テーマ・内容）

1	①1年間の授業についてのガイダンス　②循環器系の機能形態学復習	16	①泌尿器系の機能形態学復習 ②泌尿器系疾患　総論（症状 ・ 検査などについて）
2	循環器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて）	17	泌尿器系疾患　各論（上部尿路 ・ 下部尿路の疾患）
3	循環器系疾患　各論 ①（急性循環不全 ・ 僧帽弁閉鎖不全症 ）	18	①生殖器系の機能形態学復習 ②生殖器系疾患　総論（症状 ・検査　などについて）
4	循環器系疾患　各論 ②（心筋症 ・ F症）	19	生殖器系疾患　各論（オスの生殖器系疾患 ・ メスの生殖器系疾患）
5	循環器系疾患　各論 ③（胎子循環と先天性心疾患）	20	①泌尿生殖器系疾患総括（小テスト） ②神経系の機能形態学復習
6	①循環器系疾患総括（小テスト） ②呼吸器系の機能形態学復習	21	①神経系疾患　総論（症状 ・検査などについて） ②神経系疾患　各論 ①（脳の疾患）
7	①呼吸器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて） ②呼吸器系疾患　各論 ①（胸膜滲出 ・ 上部気道の疾患）	22	神経系疾患　各論 ②（脊髄疾患）
8	呼吸器系疾患　各論 ②（下部気道の疾患）	23	①神経系疾患総括（小テスト） ②内分泌系の機能形態学復習 ③内分泌系疾患　総論（症状 ・ 検査などについて）
9	①呼吸器系疾患総括（小テスト） ②消化器系の機能形態学復習	24	内分泌系疾患　各論 ①（甲状腺 ・ 副腎の疾患 ）
10	①消化器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて） ②消化器系疾患　各論 ①（口腔 ・ 食道 ・ 胃 ・ 腸管の疾患）	25	内分泌系疾患　各論 ②（下垂体 ・ 上皮正体 ・ 膵臓の疾患）
11	消化器系疾患　各論 ②（肝臓 ・ 膵臓の疾患9	26	①内分泌系疾患総括（小テスト） ②眼球とその付属組織の機能形態学復習 ③眼科疾患　総論（症状 ・ 検査などについて）
12	①消化器系疾患総括（小テスト） ②運動器系の機能形態学復習	27	眼科疾患　各論（角膜疾患 ・ 水晶体疾患 ・ 網膜疾患など）
13	①運動器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて） ②運動器系疾患　各論 ①（骨折 ・関節周囲の疾患）	28	①血液・免疫系疾患　総論（血球と免疫細胞についての復習） ②血液・免疫系疾患　各論（貧血 ・ 自己免疫疾患など）
14	運動器系疾患　各論 ②（靭帯の疾患 ・ 骨腫瘍 ・ 関節炎）	29	①皮膚の機能形態学復習 ②皮膚科疾患　総論（色々な皮膚病巣について） ③皮膚科疾患　各論（細菌性皮膚疾患 ・ アレルギー性皮膚疾患など）
15	①運動器系疾患総括（小テスト） ②前期授業内容の総括	30	①眼科疾患・血液免疫疾患・皮膚科疾患総括（小テスト） ②後期授業内容の総括

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業前に各自でテキストの内容を確認し、毎回の授業に臨むこと。またさらに授業終了後はテキストをもう一度確認して、学んだ知識の定着をすることが望ましい。
教科書・テキスト	作成したオリジナルのテキスト（プリント）を使用する。
参考書	イラストでみる犬の病気 （講談社） / イラストでみる猫の病気 （講談社）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験60%、授業内小テスト20%、出席率及び授業態度20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学総論	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Integrated Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	動物看護師として長きに渡り小動物を中心とした臨床現場に従事。また、救急医療などにも精通し、多数の動物病院スタッフ教育にも携わっている。

授業の概要・目的

コミュニケーション能力を上げ、受付でのオーナー様対応を実践形式で学び習得し、働きやすい人間関係を構築できるようになる。また、衛生管理や顧客管理についても学ぶ。

到達目標

院内でのスムーズなコミュニケーションと、明るく落ち着いたオーナー様対応ができるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	動物病院の現場、動物看護師の働きについて把握する。院内コミュニケーションの重要性とチーム医療について理解する。	16	待ち時間に対するクレーム対応を習得する。
2	身だしなみについて学ぶ。衛生管理①(感染とは何か、院内清掃について)を理解する。	17	診療費に対するクレーム対応を習得する。
3	衛生管理②(洗浄、消毒、滅菌、手洗いについて)を理解する。	18	治療や看護対応へのクレーム対応を習得する。
4	受付業務、カルテ(顧客)管理について理解する。	19	受付・電話対応(接客)へのクレーム対応を習得する。
5	受付(来院時：初診、再診、予防、病気、吠える犬、大型犬、猫)の対応を習得する。(ロールプレイング)	20	入院看護記録の必要性と書き方について理解し、習得する。
6	受付(会計時：ワクチン接種、予防(ノミ、ダニ、フィラリア)後、薬の説明)を習得する。(ロールプレイング)	21	入院患者の面会対応を習得する。
7	電話対応①フード・薬の注文、予防についての問合せ、業者対応を習得する。(ロールプレイング)	22	慢性疾患に対してのグリーフケアを習得する。
8	電話対応②病気、手術(避妊、去勢、その他疾患)の問合せについて習得する。(ロールプレイング)	23	術後または麻酔下検査後状態悪化した場合のグリーフケアを習得する。
9	ワクチン接種時、消化器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	24	癌患者に対してのグリーフケアを習得する。
10	泌尿器疾患、皮膚疾患(皮膚・耳)についての問診を習得する。(ロールプレイング)	25	急死、突然死に対してのグリーフケアを習得する。
11	神経疾患、眼科疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	26	犬猫の避妊去勢のメリット・デメリットについて飼主様へ説明できるようになる。
12	整形疾患、口腔疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	27	犬猫のワクチン接種についての説明、ワクチン接種後の注意事項の説明をスムーズにできるようになる。
13	循環器疾患、呼吸器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	28	ノミ・ダニ予防を飼主様へ推奨し、スポットタイプの予防薬については使用方法の指導ができるようになる。
14	疾患を予測しながらの問診を練習し、実際に行う現場での問診を習得する。	29	フィラリア予防について分かりやすく説明できるようになる。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑤ （ファームプレス）
参考書	なし。
評価方法・基準	評価の割合は口頭試問50%、出席率25%、授業態度25%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床検査学	開講年度	2023	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Examination	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)

講師名	
実務経験概要	認定動物看護師／アニマルサポートオフィス・ミーチョ　代表／（社）ペットマッサージ協会認定　ペット東洋医学アドバイザー 日本動物看護学会　理事／（一社）関西動物看護教育研究会　代表／（一社）日本ペットサービス研究会　理事

授業の概要・目的

看護を行うためには、数多くの知識と多角的な視点が必要であり、また、それらを統合し考える能力も必要となる。
本科目では様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、検査や治療に関する基本的な知識を習得・整理したうえで、罹患動物に対する検査・治療・入院それぞれでの安全と安楽を守るための思考回路を確立する。

到達目標

罹患した動物の安全・安楽を考えた看護の具体策を発案できる。

授業計画（テーマ・内容）

1	各疾病の動物看護師としての視点、アセスメント方法について理解する。	16	運動・神経機能障害（それぞれの症状の特徴）とは何か理解する。
2	循環機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	17	運動・神経機能障害の代表的な疾患の確認を行う。検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。
3	循環器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	18	運動・神経機能障害における看護の観察項目と具体策について考える。
4	循環器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	19	リハビリテーションの目的・種類・効果について理解する。
5	循環器疾患の動物の看護目標と観察項目について学ぶ。	20	排泄機能障害とは何か、多飲多尿を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。
6	循環器疾患の看護の具体策について考える。	21	多飲多尿の動物に対する看護の具体策について考える。
7	呼吸機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	22	下痢・便秘を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。
8	呼吸器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	23	下痢・便秘の動物に対する看護の具体策について考える。
9	呼吸器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	24	繁殖機能障害とは何か理解する。繁殖に関する基礎知識の確認を行う。
10	呼吸器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	25	潜在精巣・前立腺肥大・子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の疾病機序・治療について理解する。
11	消化機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	26	子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の看護について理解する。
12	消化器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	27	担がん動物における看護の留意点について理解する。
13	消化器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	28	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の疾病機序・治療について理解する。
14	消化器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	29	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の看護の具体策について考える。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	前回の授業の予告に伴い、1年次に学習した内容から関連個所の予習を行う。 授業終了後には自信を持って説明できない箇所に関して、次回に質問ができるようにノートをまとめる。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥ （ファームプレス）
参考書	臨床動物看護学　各論 （インターズー）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率10%、積極性20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物外科看護学実習	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Surgery Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)

講師名	
実務経験概要	小動物を中心とした臨床獣医師として、多数の動物病院での診療に従事。

授業の概要・目的

外科治療の補助に必要な基礎知識および外科における衛生感の獲得を目指し、それらを利用した安全確実な術前の準備や術中補助、術後管理を習得する。麻酔についても基礎的な知識やその選択についても学習し動物看護において要求される可能性の高い麻酔監視の要点や助手としての手術補助に耐えうる知識を身に着け、現場で実践出来るように、反復学習および確認のテストなども含めて進めていく

到達目標

実習ですべての外科に対応できるわけではないが、実習を利用し応用の利くように基礎的な外科知識を身に着け、現場でのインプット及びアウトプットがスムーズに行えるようになることを目標とする

授業計画（テーマ・内容）

1	オリエンテーション　外科とは　犬の扱い及び保定について	16	看護計画の策定について
2	小型犬、猫の保定を習得する	17	周術期の動物の痛みについて
3	術着とドレープの準備　オペモニターについて	18	入院管理について
4	器具について　その用途名称を身につける	19	入院時の衛生管理について
5	ここまでの確認	20	チューブフィーディングについて
6	助手について	21	周術期に起こりうる緊急対応について
7	術前の準備について　手洗い法など	22	麻酔のリスクとは
8	麻酔について①　輸液や留置準備、気管挿管について	23	歯石除去の手順について
9	麻酔について②　麻酔に用いる薬剤などについて　心肺蘇生について	24	去勢手術時の補助について実際のシミュレーション
10	不妊手術の術式について	25	去勢手術
11	鎮静処置について	26	避妊手術時の補助について実際のシミュレーション
12	ここまでの確認	27	避妊手術
13	実際の麻酔処置について	28	抜歯の準備と手技について
14	前期の内容の振り返り	29	後期振り返り
15	生体への麻酔についての実際の準備の反復訓練	30	術後の管理についてのインフォームについて

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	
教科書・テキスト	
参考書	
評価方法・基準	
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学各論	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Itemized Theory of Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)

講師名	
実務経験概要	かしはら動物病院開業獣医師 奈良県橿原市を中心に、小動物（主に犬と猫）診療に従事

授業の概要・目的

主に犬と猫によくみられる疾患についての正しい知識（疾病の概要・症状・原因・検査・治療等）を学び、それを基礎にして動物看護師として、よりよい看護計画を作成することができるようになることを目的とする

到達目標

①主に犬猫の色々な疾患に対する正しい知識の習得を第一の目標とする。
②疾患についての正しい知識を基礎に、それぞれの症例に合わせた最良の看護計画を作成し、それを実践できるようにする。
③愛玩動物看護師国家試験に合格出来るレベルの知識を身に着ける

授業計画（テーマ・内容）

1	①1年間の授業についてのガイダンス　②循環器系の機能形態学復習	16	①泌尿器系の機能形態学復習 ②泌尿器系疾患　総論（症状 ・ 検査などについて）
2	循環器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて）	17	泌尿器系疾患　各論（上部尿路 ・ 下部尿路の疾患）
3	循環器系疾患　各論 ①（急性循環不全 ・ 僧帽弁閉鎖不全症 ）	18	①生殖器系の機能形態学復習 ②生殖器系疾患　総論（症状 ・検査　などについて）
4	循環器系疾患　各論 ②（心筋症 ・ F症）	19	生殖器系疾患　各論（オスの生殖器系疾患 ・ メスの生殖器系疾患）
5	循環器系疾患　各論 ③（胎子循環と先天性心疾患）	20	①泌尿生殖器系疾患総括（小テスト） ②神経系の機能形態学復習
6	①循環器系疾患総括（小テスト） ②呼吸器系の機能形態学復習	21	①神経系疾患　総論（症状 ・検査などについて） ②神経系疾患　各論 ①（脳の疾患）
7	①呼吸器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて） ②呼吸器系疾患　各論 ①（胸膜滲出 ・ 上部気道の疾患）	22	神経系疾患　各論 ②（脊髄疾患）
8	呼吸器系疾患　各論 ②（下部気道の疾患）	23	①神経系疾患総括（小テスト） ②内分泌系の機能形態学復習 ③内分泌系疾患　総論（症状 ・ 検査などについて）
9	①呼吸器系疾患総括（小テスト） ②消化器系の機能形態学復習	24	内分泌系疾患　各論 ①（甲状腺 ・ 副腎の疾患 ）
10	①消化器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて） ②消化器系疾患　各論 ①（口腔 ・ 食道 ・ 胃 ・ 腸管の疾患）	25	内分泌系疾患　各論 ②（下垂体 ・ 上皮正体 ・ 膵臓の疾患）
11	消化器系疾患　各論 ②（肝臓 ・ 膵臓の疾患9	26	①内分泌系疾患総括（小テスト） ②眼球とその付属組織の機能形態学復習 ③眼科疾患　総論（症状 ・ 検査などについて）
12	①消化器系疾患総括（小テスト） ②運動器系の機能形態学復習	27	眼科疾患　各論（角膜疾患 ・ 水晶体疾患 ・ 網膜疾患など）
13	①運動器系疾患　総論（症状 ・ 検査　などについて） ②運動器系疾患　各論 ①（骨折 ・関節周囲の疾患）	28	①血液・免疫系疾患　総論（血球と免疫細胞についての復習） ②血液・免疫系疾患　各論（貧血 ・ 自己免疫疾患など）
14	運動器系疾患　各論 ②（靭帯の疾患 ・ 骨腫瘍 ・ 関節炎）	29	①皮膚の機能形態学復習 ②皮膚科疾患　総論（色々な皮膚病巣について） ③皮膚科疾患　各論（細菌性皮膚疾患 ・ アレルギー性皮膚疾患など）
15	①運動器系疾患総括（小テスト） ②前期授業内容の総括	30	①眼科疾患・血液免疫疾患・皮膚科疾患総括（小テスト） ②後期授業内容の総括

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業前に各自でテキストの内容を確認し、毎回の授業に臨むこと。またさらに授業終了後はテキストをもう一度確認して、学んだ知識の定着をすることが望ましい。
教科書・テキスト	作成したオリジナルのテキスト（プリント）を使用する。
参考書	イラストでみる犬の病気 （講談社） / イラストでみる猫の病気 （講談社）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験60%、授業内小テスト20%、出席率及び授業態度20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床検査学	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Examination	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	認定動物看護師／アニマルサポートオフィス・ミーチョ　代表／（社）ペットマッサージ協会認定　ペット東洋医学アドバイザー 日本動物看護学会　理事／（一社）関西動物看護教育研究会　代表／（一社）日本ペットサービス研究会　理事

授業の概要・目的

看護を行うためには、数多くの知識と多角的な視点が必要であり、また、それらを統合し考える能力も必要となる。
本科目では様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、検査や治療に関する基本的な知識を習得・整理したうえで、罹患動物に対する検査・治療・入院それぞれでの安全と安楽を守るための思考回路を確立する。

到達目標

罹患した動物の安全・安楽を考えた看護の具体策を発案できる。

授業計画（テーマ・内容）

1	各疾病の動物看護師としての視点、アセスメント方法について理解する。	16	運動・神経機能障害（それぞれの症状の特徴）とは何か理解する。
2	循環機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	17	運動・神経機能障害の代表的な疾患の確認を行う。検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。
3	循環器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	18	運動・神経機能障害における看護の観察項目と具体策について考える。
4	循環器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	19	リハビリテーションの目的・種類・効果について理解する。
5	循環器疾患の動物の看護目標と観察項目について学ぶ。	20	排泄機能障害とは何か、多飲多尿を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。
6	循環器疾患の看護の具体策について考える。	21	多飲多尿の動物に対する看護の具体策について考える。
7	呼吸機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	22	下痢・便秘を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。
8	呼吸器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	23	下痢・便秘の動物に対する看護の具体策について考える。
9	呼吸器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	24	繁殖機能障害とは何か理解する。繁殖に関する基礎知識の確認を行う。
10	呼吸器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	25	潜在精巣・前立腺肥大・子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の疾病機序・治療について理解する。
11	消化機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	26	子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の看護について理解する。
12	消化器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	27	担がん動物における看護の留意点について理解する。
13	消化器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	28	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の疾病機序・治療について理解する。
14	消化器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	29	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の看護の具体策について考える。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	前回の授業の予告に伴い、1年次に学習した内容から関連個所の予習を行う。 授業終了後には自信を持って説明できない箇所に関して、次回に質問ができるようにノートをまとめる。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥ （ファームプレス）
参考書	臨床動物看護学　各論 （インターズー）
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率10%、積極性20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物・入院管理	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学総論	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Integrated Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)

講師名	
実務経験概要	動物看護師として長きに渡り小動物を中心とした臨床現場に従事。また、救急医療などにも精通し、多数の動物病院スタッフ教育にも携わっている。

授業の概要・目的

コミュニケーション能力を上げ、受付でのオーナー様対応を実践形式で学び習得し、働きやすい人間関係を構築できるようになる。また、衛生管理や顧客管理についても学ぶ。

到達目標

院内でのスムーズなコミュニケーションと、明るく落ち着いたオーナー様対応ができるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	動物病院の現場、動物看護師の働きについて把握する。院内コミュニケーションの重要性とチーム医療について理解する。	16	待ち時間に対するクレーム対応を習得する。
2	身だしなみについて学ぶ。衛生管理①(感染とは何か、院内清掃について)を理解する。	17	診療費に対するクレーム対応を習得する。
3	衛生管理②(洗浄、消毒、滅菌、手洗いについて)を理解する。	18	治療や看護対応へのクレーム対応を習得する。
4	受付業務、カルテ(顧客)管理について理解する。	19	受付・電話対応(接客)へのクレーム対応を習得する。
5	受付(来院時：初診、再診、予防、病気、吠える犬、大型犬、猫)の対応を習得する。(ロールプレイング)	20	入院看護記録の必要性と書き方について理解し、習得する。
6	受付(会計時：ワクチン接種、予防(ノミ、ダニ、フィラリア)後、薬の説明)を習得する。(ロールプレイング)	21	入院患者の面会対応を習得する。
7	電話対応①フード・薬の注文、予防についての問合せ、業者対応を習得する。(ロールプレイング)	22	慢性疾患に対してのグリーフケアを習得する。
8	電話対応②病気、手術(避妊、去勢、その他疾患)の問合せについて習得する。(ロールプレイング)	23	術後または麻酔下検査後状態悪化した場合のグリーフケアを習得する。
9	ワクチン接種時、消化器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	24	癌患者に対してのグリーフケアを習得する。
10	泌尿器疾患、皮膚疾患(皮膚・耳)についての問診を習得する。(ロールプレイング)	25	急死、突然死に対してのグリーフケアを習得する。
11	神経疾患、眼科疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	26	犬猫の避妊去勢のメリット・デメリットについて飼主様へ説明できるようになる。
12	整形疾患、口腔疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	27	犬猫のワクチン接種についての説明、ワクチン接種後の注意事項の説明をスムーズにできるようになる。
13	循環器疾患、呼吸器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	28	ノミ・ダニ予防を飼主様へ推奨し、スポットタイプの予防薬については使用方法の指導ができるようになる。
14	疾患を予測しながらの問診を練習し、実際に行う現場での問診を習得する。	29	フィラリア予防について分かりやすく説明できるようになる。
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑤ （ファームプレス）
参考書	なし。
評価方法・基準	評価の割合は口頭試問50%、出席率25%、授業態度25%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Open Campus	授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					

授業の概要・目的

企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。

到達目標

イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。

授業計画（テーマ・内容）

1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16	
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17	
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18	
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19	
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20	
6	実施準備 制作物の作成①	21	
7	実施準備 制作物の作成②	22	
8	実施準備 接遇のトレーニング	23	
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24	
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25	
11	イベント日① 1日目　実施と反省	26	
12	イベント日② 2日目　実施と反省	27	
13	後片付け アンケート集計	28	
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29	
15	総括 次年度の申送り書作成	30	

授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。
教科書・テキスト	なし
参考書	なし
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	愛護・適正飼養学	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	ペット関連産業概論	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Pet Alied Industries	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要					

授業の概要・目的

経営の基本、マーケティングの基本、マネジメントの基本、物流と商流の基本、ディスプレイの基本を学習。
メーカー訪問・・・メーカーマーケティング/商品開発のレクチャー
卸企業訪問　・・・問屋マーケティング/物流業としての在庫から出荷までの流れのレクチャー。
模擬店出店　・・・学生自らがテーマ（コンセプト）を決めて、商品選定/POP/ポスター作製、陳列、接客販売を体験する。
独立開業の有無を問わず、業界人としてのスキルを身に着けることによって、社会人としての活躍の基礎となす。

到達目標

○可能な限りの即戦力性の育成
○自立性の育成

授業計画（テーマ・内容）

1	ペット業界の現状を知ることにより理解を深める	16	経営の基本③ペットショップ、ペットサロン経営の基本的考え方
2	物流、商流とは何か。物流の在り方と重要性/問題点	17	会社設立のためのプランニング
3	日本の商習慣と業態別商流の問題点	18	マネジメントの基本①組織マネジメントとは
4	メーカーマーケティング（メーカー訪問）	19	マネジメントの基本②自己管理、部下の管理、目標設定と計画立案、アクションとレビュー
5	卸業マーケティング（卸企業訪問）	20	マーケティングの応用①自己のペット業界における位置付けから考えるマーケティング。美容、物販、訓練、カフェ、生体販売それぞれの角度から考える力を養う。
6	マーケティングの基本①価格ストラクチャーと粗利計算、商品知識	21	マーケティングの応用①自己のペット業界における位置付けから考えるマーケティング。美容、物販、訓練、カフェ、生体販売それぞれの角度から考える力を養う。
7	マーケティングの基本②ペットショップマーケティング	22	マーケティングの応用②ペット専門店のマーケティング。今後の国内専門店が目指すべき方向を考え、どのようなマーケティングを行えば良いかを導き出す。
8	マーケティングの基本③ビジネスプラン/戦術（tactic）と戦略（strategy）	23	業界展示会見学（日本ウエイン株式会社を予定）
9	ディスプレイの基本①ディスプレイとは何か。そのセオリーと役割	24	ドッグイベントでの模擬店出店準備①　コンセプトと内容のプランニング
10	ディスプレイの基本②ディスプレイの応用（校外でのショップ見学）	25	ドッグイベントでの模擬店出店準備②商品設定（ペット商事）
11	ディスプレイの基本③ペットショップディスプレイ（ペットコロニーくずは店）	26	ドッグイベントでの模擬店出店準備③POP・ポスター作製
12	経営の基本①経営とは何か。会社とは何か。株主・役員・社員の役割	27	ドッグイベントでの模擬店出店④接客販売体験
13	経営の基本②マーケットに於けるペット業界の位置付けとその特殊性	28	WeareECO模擬店　コンセプトと内容の決定　商品選定（ペットコロニーくずは店）
14	前期授業のまとめ	29	WeareECO模擬店　POP、ポスター作製
15	振り返り	30	年間の総括

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業時に適宜課題を与える
教科書・テキスト	なし
参考書	なし
評価方法・基準	前期/筆記試験　　後期/実技評価
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	関連法規	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物医療関連法規	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Veterinary Laws and Regulations	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要					

授業の概要・目的

認定動物看護師試験の範囲について学ぶと共に、動物看護師及び飼い主としても人や動物と向き合う上で必要な法律について学ぶ。

到達目標

・狂犬病予防法や動物愛護法、獣医師法などの各種法律の概要について理解できるようになる。
・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。
・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16	動物愛護法（4）動物虐待の定義、罰則
2	狂犬病予防法（1） 狂犬病の概要、狂犬病清浄国について	17	動物愛護法（5）周辺の生活環境の保全など
3	狂犬病予防法（2） 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など□	18	動物愛護法（6）動物取扱業の概要 その1□
4	狂犬病予防法（3） 対象動物、輸入禁止動物など□	19	動物愛護法（7）動物取扱業の概要 その2□
5	狂犬病予防法（4） 飼い主と行政の義務、罰則など□	20	動物愛護法（8）動物取扱業の概要 その3□
6	獣医師法（1） 獣医師法の概要、飼育動物の範囲	21	ペットフード安全法（1） 法の概要、ペットフードの範囲
7	獣医師法（2） 獣医師の義務と権利 無診察診療の禁止など	22	ペットフード安全法（2） 表示義務など
8	獣医師法（3） 獣医師の届出義務、罰則など	23	愛玩動物看護師法（1） 法の概要
9	獣医療法（1） 獣医療法の概要、開院時の届出など	24	愛玩動物看護師法（2） 愛玩動物看護師の役割など
10	獣医療法（2）獣医療分野における広告規制など	25	身体障害者補助犬法、家畜伝染病予防法
11	動物愛護法（1） 動物愛護法の制定背景、法律の概要	26	廃棄物処理法、感染症法など
12	動物愛護法（2）目的、基本原則、動物愛護週間など	27	外来生物法，ワシントン条約、鳥獣保護法
13	動物愛護法（3）飼い主の責務、犬猫の引取りなど	28	薬機法、民法など
14	前期学習内容の総括	29	後期学習内容の総括
15	前期学習内容の振り返り	30	後期学習内容の振り返り

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に書き留めたメモなどからノートを作成する
教科書・テキスト	なし。
参考書	動物看護コアテキスト① （ファームプレス）
評価方法・基準	評価の割合は、筆記試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	卒業研究	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	卒業研究	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Graduation Study	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要					

授業の概要・目的

卒業研究作成に必要な基本的なノウハウについて習得する。同時に、各自もしくは各グループのテーマの決定とそれに伴う情報収集を行う。卒業研究のレベルアップとして、実験計画法もしくは研究法といった方法論と卒業研究に必要なデータの処理についても学習する。科学性と客観性に重点を置き、レポートとは異なるあくまでも論文形式であることを強調する。ただし、内容的には動物看護の枠組みの中での実学的なわかりやすいかつ質の向上を目標にした研究・実践報告としたい。

到達目標

チームアプローチを目標に科学的視点から客観的に分析できる能力を身につけることを目標とする。卒業研究を通して、実践的な作業能力とデータ分析の仕方、問題意識を具体的な調査に反映するスキル、仮説演繹的思考力を高めることを目標とする。

授業計画（テーマ・内容）

1	卒業研究レポートの位置づけとどのように研究レポートを書き進めていくかの基本的考え方について理解する。	16	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
2	実験、調査を進めていくうえでの、基本的なデータ分析の仕方について学習する。	17	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
3	実験、調査を進めていくうえでの、基本的なデータ分析の仕方について学習する。	18	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
4	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	19	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
5	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	20	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
6	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	21	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。第3回中間発表を行う。
7	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。第1回中間発表を行う。	22	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
8	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	23	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。
9	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	24	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。第4回中間発表を行う。
10	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	25	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。
11	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	26	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。
12	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	27	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。
13	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。第2回中間発表を行う。	28	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。
14	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。	29	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。
15	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。	30	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業までの1週間、研究グループ内での情報収集、予備調査・実験、本調査・実験、データの収集と分析を行う。（授業内で随時確認）
教科書・テキスト	卒業研究論文作成マニュアル（竹花作成）
参考書	研究テーマごとの論文
評価方法・基準	評価の割合は卒業研究中間発表及び学科内最終発表、卒業研究制作の評価70%、授業内評価10%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物理学療法	開講年度	2023	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Plysiotherapy	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）
講師名					
実務経験概要					

授業の概要・目的

理学療法はリハビリテーションの１項目として存在するが動物の理学療法はまだまだ未発展な分野であり、実施している病院も多くはない。しかし、その分の動物看護師の介入が大きく期待できる分野でもある。その為、動物理学療法の基礎を理解し適応症例の判断や基礎的なプログラムの作成を修得することで将来的に自身のアドバンテージとしてリハビリテーションを提案していく事が可能になる。また、動物理学療法を正しく理解する為には解剖学や生理学、疾患についての知識などの総合的な知識を得る事が必要となるため、将来的にリハビリテーションを行わない場合にも、必要な知識としてリハビリに関する総合的な知識を身につける。

到達目標

リハビリに必要な基礎知識を理解し、基礎的なリハビリテーションを提案し、行えるようになる。理学療法を行ってはいけない症例や禁忌を理解し、判断できる知識を習得する。自分考えるリハビリテーションとはどのようなものかを明確に表現できるようになる。

授業計画（テーマ・内容）

1	動物理学療法について：理学療法とは何か？リハビリとはなにか？廃用と不動化について、リハビリテーションの必要性を理解する。	16	加温と冷却：温熱療法と寒冷療法・炎症についての基礎知識を理解し、実施できるようになる。
2	骨学（前肢）：前肢および上半身の骨格について理解し、触知できるようになる。	17	モダリティ：電気治療器やレーザー・超音波等の各モダリティの使用方法と用途を理解し、使用できるようになる。（学校にある道具の範囲で）
3	骨学（後肢）：後肢および下半身の骨格について理解し、触知できるようになる。	18	ダイエット：ダイエットについての基礎知識とリハビリにおいての必要性を理解し、ダイエットプログラムの作成を行えるようになる。
4	関節学：関節の基本構造と各関節の仕組みを理解し、分類できるようになる。	19	水中療法：水中運動の適応とメリットデメリットを理解し、実際に行えるようになる。
5	筋学（前肢）：前肢および上半身の筋肉について理解し、触知できるようになる。	20	徒手療法：ストレッチやP-ROMの危険性と方法について理解し、基礎的な徒手療法の動きをできるようになる。
6	筋学（後肢）：後肢および下半身の筋肉について理解し、触知できるようになる。	21	バランスボール：バランスボールを使用しての、ストレッチやA-ROMの行い方を理解し、実施できるようになる。
7	歩様について：正常な歩様と異常な歩様の歩様分類が可能になり歩行検査と跛行グレードの評価ができるようになる。	22	整形疾患１：代表的な整形外科疾患（膝蓋骨脱臼・前十字靭帯断裂・股関節形成不全）ついての知識とそのリハビリについて理解し、説明できるようになる。
8	周囲長：筋量測定の方法と周囲長について理解し、実際に測定できるようになる。	23	整形疾患２：代表的な整形外科疾患（レッグペルテス・骨折・前肢疾患）についての知識とそのリハビリについて理解し、説明できるようになる。
9	関節可動域：関節可動域の必要性と測定方法を理解し、実際に測定できるようになる。	24	神経解剖学：神経の働きと考え方についての理解と神経学的異常を見極められるようになる。神経学的検査の方法を理解し、実施できるようになる。
10	支持基底面：支持基底面と重心についての考え方を理解し、説明できるようになる。	25	神経疾患：代表的な神経疾患（椎間板ヘルニア等）についての知識とそのリハビリを理解し、実施・説明できるようになる。
11	バランス運動について：バランス運動の必要性の理解と基礎的なバランス運動を行えるようになる。	26	高齢期リハ：シニア犬シニア猫の特徴と注意点を理解し、高齢期のリハビリプログラムを計画できるようになる。
12	バランスボール：バランスボールの使い方を理解し、バランスボールを使った基礎的なバランス運動を行えるようになる。	27	プログラムの組み立て：実際のリハビリプログラムの組み立て方を理解し、実際の症例を想定してリハビリプログラムを提案出来るようになる。
13	まとめ：前期で学習した内容のまとめと復習を行い、解剖学を理解した総合的な判断で基礎的な運動療法を行えるようになる。	28	まとめ：１年間で学習した内容のまとめと復習を行い基礎的な理学療法を理解した上で自分の考えるリハビリテーションを表現できるようになる。
14	前期試験	29	後期試験
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。

授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。（カラーリングアトラスの色塗り）（リハビリプログラムの作成）（各疾患に対しての予習ノートの作成）
教科書・テキスト	カラーリングアトラス（学窓社）・イラストで見る犬の病気（講談社）・イラストで見る猫の病気（講談社）・動物看護のコアテキスト
参考書	授業中に適宜紹介
評価方法・基準	筆記試験50%・授業内小テスト20%・出席点20%・平常点10%で最高点数を100点とする
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。